

LOOK ウラジオストク（2017年9月15日～24日）

40年前のブレジネフ首相時代、ソ連（プスコフ市）に7か月間仕事で滞在。そのときにロシア語を少し独学。当時が懐かしく「元気なうちにロシアの生活を再び味わってみたい」との思いで短期留学を検討。できればマラソンにも出てみたい。ということで留学先をウラジオストクに決定。

個人レッスンで1日90分を2回、5日間。合計15時間。滞在はホームステイ（朝食・夕食付）。

日程は9月15日（金）に関空からウラジオストクに入り、16（土）17（日）は自由行動。

18（月）～22（金）1日3時間の授業、プラスどっさり？の宿題！

23（土）ウラジオストク国際マラソン。24（日）成田経由で帰国

15日、不安半分・期待半分で関空からウラジオストク空港へ。

空港ではホストマザーのAnnaさんが出迎え。彼女運転の車で約1時間のステイ先へ。

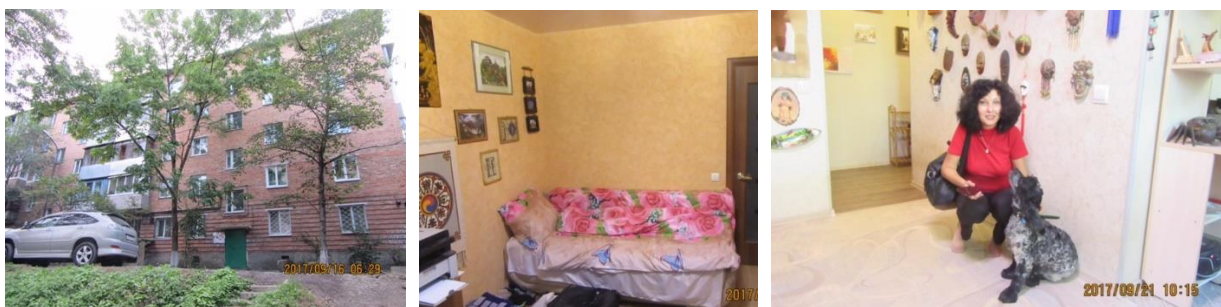
旅行社から「ホストマザーは一人暮らしのお婆さん」と聞いていたのに私よりはるかに若い！

彼女は中国語の教師で英語はもちろん日本語も私のロシア語より上手。会話では四か国語が乱れ飛ぶ！

家はソ連時代のアパートの1階（2LDK）。彼女の書斎が私の部屋に早変わり。（中写真）

いくら寝室が別と言っても女性と二人で住むのは嬉しいような怖いような！

明日は彼女の48回目の誕生日！



16日、Annaのテニス友達が誕生日祝いの花束を持って朝から来訪。テニスを見学して一人で市内観光へ。

土曜日は中央広場で朝市が開かれている。スイカは今は最盛期で1個約300円、蜂蜜小1カップ約200円。

日本から「新鮮なおつけもの」も車で届きました！？（右写真）

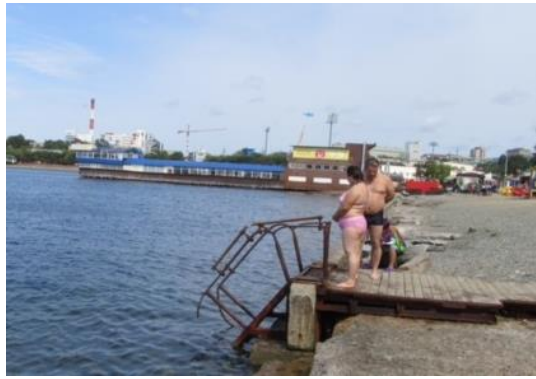


鷲の巣展望台から2012年のAPEC首脳会議に合わせて作られた黄金橋を眺める。（左写真）

潜水艦や昔の軍艦（中写真）を見学し、シベリア鉄道の始発駅へ。モスクワから9288kmを示す標識（右写真）。



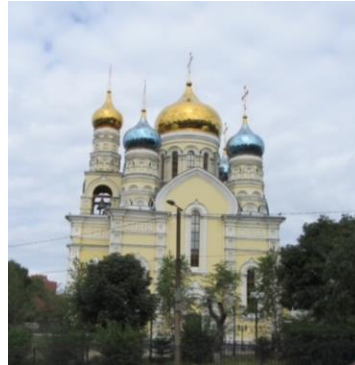
昼食後、海浜公園でアイスクリーム。鉄梯子を降りて泳ぐ人。水族館には白いチョウザメ(キャビアの親)。



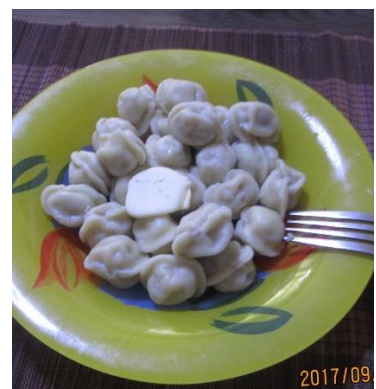
18日、授業開始。家から徒歩で約20分のウラジオストク経済サービス大学。中国からの留学生は多数。私の先生は熱心で無駄口はほとんどなし。私のレベルに合わせて丁寧に指導して頂きました。教科書に倣って「お幾つですか?」「30歳!」(中写真) 学食にもトライしてみました。(右写真)



時間のあるときは、散髪に行ったり路地裏を散歩したり公園をジョグしたり。肉体労働者はほとんど男性(40年前は多くの女性がツルハシを持って働いていました)カラスをほとんど見ない。カササギ(カラスより小さく羽が白い)がいるけど生ごみは食べない。



ステイ先でのロシア料理。ブリヌイ(イクラをタップリ塗って)、甘いヴァレーニキ、ペリメニなど。



22日、授業終了、宿題もなし。Annaは昨日から出張で不在。近くに住むAnnaのお母さんが来てくれた。明日のマラソン会場に近いホテルへタクシーで移動。晩飯は近くのコンビニで買い出し。



23日、大会当日

ホテルから会場へ行く途中でキーロフ出身の男性と知り合う。彼の英語発音、hours（時間）はホース！？フルのスタート地点、募集人員は1000人だけど集まったのは250人足らず。

一人の女性（Sさん）から「日本人ですか？」私が日本のジェルを啜っていたので声を掛けたそうだ。その内、一人また一人と声を掛けたり掛けられたりして6人が結集。（左から二つ目の写真）

Sさん以外はロシア語をご存じない。それでもネットを使って自分で大会や宿を手配したとのこと！コースは大波がうねるようなアップダウンの連続。（ゴールまでフラットな場所はほとんどない）

10km 辺りからずっと並んで走る女性。前を見て黙々と走っている。（左から三つ目の写真）

「ロシア人ですか？」彼女は頷くだけ。「マラソン何回目？」人差し指を立てるだけ（初めて）。前方がカーブでのコースの取り方などを教えてあげるとちゃんと理解してくれた。

33km で足が攣る。

「先に行って！ Good luck!」。その時初めてしゃべった彼女の言葉・・・「アリガトウ」・・・感激！しばらく歩いたり走ったり。39km では全く足が動かない。しばらく休んでから脚を引きずりながら前進。ゴール前の大通りは車シャットアウトの歩行者天国。道行く人はランナーには目もくれない。拍手もない。



ゴールではスタッフ数人が歓声をあげて迎えてくれた。（左写真）5時間18分36秒。（制限時間6時間）軍隊が炊き出してくれたカーシャの写真（中写真）を撮っていると、男性「貴方を撮ってあげよう」彼はモスクワから参加。少し英語ができて話し好き。すっかり親しくなりました。（右写真）



一旦ホテルに帰って休息。今回知り合った仲間が連絡を取り合い、9名が6時に広場の銅像前に集合。ウラジオストク海洋大学の日本語教師をしているMさんが、古風で荘厳なレストランに案内してくれました。各々が自己紹介。ロシアが好きで昨年のモスクワマラソンにも参加したSさん。今年の3月に走り始めて既にハーフを6回（内、海外4回）走ったUさん。今回のロシアが67か国目の訪問地というYさん等々。MさんとSさんを除くと皆さんロシア語はほぼ分からない。英語もあまり通じないウラジオストクに個人で手続きして参加するという逞しさ、バイタリティーには感心させられました。



美味しい料理を腹一杯食べて飲んで、楽しく歓談して一人1200p（約2400円）！

こんな時間を過ごせるとは夢にも思いませんでした。Mさんにお会いできた幸運に感謝・感謝！

私を除く8名の内、1名は岡山マラソンに、2名は香港マラソンにエントリー済み。

またお会いできるのを楽しみにしています。

24日、市内からウラジオストク空港まで列車を利用。成田までは初めて日本へ行く二人連れが臨席。

約2時間の飛行時間、ロシア語を楽しく学習しながら帰ることができました。

伊丹まで同行のIさんは、2004年ホノルル以降、毎年一度海外の大会に参加しているそうです。今回14回目



ウラジオストク：日本から最も近い西洋の街、今年8月から短期（8日以内）ならビザも不要。

ウラジオストクマラソン：美しい景色、美しい橋、とても素晴らしいコースです。（記録狙いはムリ！）

是非訪れてみて下さい。Iさんが早速ウラジオストクマラソン参加のための手引きブログを作成しています。

留学、大会、打上げ、帰国でお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。